

2025 年度秋学期授業アンケート概要について

2026 年 4 月
大学戦略・IR 室

2025 年度秋学期授業アンケート

実施期間：2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 26 日（月）

回答率：35.9%（2024 年度秋学期実績 35.0%）

本学では、教育の質の維持・向上および授業改善を目的として、毎学期、全学的に授業アンケートを実施している。2025 年度秋学期においても、全授業科目を対象としてアンケートを実施し、その結果を分析した。

本アンケートの結果によれば、「この授業全体を評価すると次のどれにあたりますか」という設問に対して、「とてもよい」および「よい」と回答した学生の割合は合計 76.9%に達しており、本学の授業は全体として一定の満足度を維持していることが確認された。

また、「この授業の内容について関心を持ち、授業内容についてさらに深く勉強したいと思いましたが」という設問については、88.9%の学生が肯定的な回答を示しており、学生の学修意欲は高い水準にあるといえる。さらに、「この授業では、教員の話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」という設問に対しても、90.5%の学生が肯定的に回答しており、教員による指導のわかりやすさが学生の評価に大きく寄与していることがうかがえる。

加えて、「この授業はシラバスに沿って行われていましたか」という設問に対しては、94.6%の学生が肯定的な回答を示しており、授業運営の適正性が高い水準で確保されていることが確認された。

一方で、授業外学習時間については、「1 時間未満」および「1～2 時間」と回答した学生の割合が合計 76.3%を占めており、依然として多くの学生が十分な授業外学習時間を確保できていない状況が見られる。このことから、学習習慣の定着に向けたさらなる取組の必要性が示唆されている。

一方で、授業満足度に影響を与える要因について分析した結果、全体としては「この授業では、教員の話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」という項目が満足度に対して正の影響を与える主要な要因であることが確認された。すなわち、当該項目において肯定的に評価している学生ほど、授業全体の満足度も高い傾向が認められたということであり、学科別・学科別の分析においても、概ね全体と同様の傾向が認められている。

なお、学科別の分析においては、舞台表現学科では、「あなたはこの授業の内容について関心を持ち、授業内容についてさらに深く勉強したいと思いましたが」という項目が満足度に対して最も強い正の影響を示しており、学習内容への内発的動機づけが重要な要因となっていることが示唆された。また、スポーツマネジメント学科においては、「あなたはこの授業（または課題制作）の学修到

達目標を達成できたと思いますか」という項目が満足度に対して最も強い正の影響を示しており、学習成果の実感が学生の評価に大きく寄与していることが明らかとなった。

以上の分析結果から、授業満足度の向上に向けては、「教員の説明のわかりやすさ」を基盤とした授業改善を一層推進することが不可欠である。そのうえで、各学科の教育内容や学修特性の違いを踏まえ、それぞれの特色に応じた取組を計画的かつ継続的に展開していくことが必要であると言える。